

政務活動費収支報告書



令和 7 年 4 月 14 日

瑞穂町議会議長

山 崎 栄 様

議員名 小 川 龍 美 

令和 6 年度政務活動費について、次のとおり収支報告します。

1 収 入 （政務活動費交付額 金 120,000 円）

2 支 出 （政務活動費支出額 金 137,415 円）

3 添 付 書 類 支出に係る領収書等の証拠書類

令和6年度 政務活動費 収支報告書

議員名： 小川 龍美

1 収 入

項 目	金 額	説 明
政務活動費 (①)	120,000 円	当初交付金

2 支 出

項 目	金 額 ※1	説 明
調 査 研 究 費	58,155 円	支出内訳参照
研 修 費	円	
広 報 ・ 広 聴 費	円	
資 料 作 成 費	5,000 円	
資 料 購 入 費	74,260 円	
合 計 (②)	137,415 円	

差引金額 (①-②)	△ 17,415 円 ※2
------------	---------------

※1 使途項目ごとに集計の上記載してください。

※2 差引金額に残余が生じた場合は、この金額を返還してください。
(差引金額が△(マイナス)の場合は返還の必要はありません。)

3

項 目	適用及び内容 (視察の場合は日程及び場所を記入すること)	支払金額	備考
資料購入費	西多摩新聞	11,880 円	
資料購入費	西の風新聞	11,880 円	
資料購入費	読売新聞	37,300 円	
資料購入費	朝日新聞	13,200 円	
資料作成費	プリンターインク代	5,000 円	
調査研究費	視察 令和7年1月14～16日	58,155 円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		円	
		137,415 円	

視 察 報 告 書

議員名 : 小川 龍美

1 期 間 : 令和 7 年 1 月 14 日 (火) ~ 1 月 16 日 (木)

2 参 加 者 : 小川 龍美 下野 義子 原 隆夫
及び 日の出町公明党議員 (2 名)

3 視察先及び視察項目

	都道府県名	市町村名・施設名	視察項目
[1]	宮崎県	都城市	自治体 DX の取り組みについて
[2]	鹿児島県	曾於市	定住促進制度の取り組みについて
[3]	宮崎県	小林市	ハッシン小林プロジェクト (シティプロモーション) の取り組みについて

4 視察報告

(1) 選定理由

- [1] 自治体 DX の取り組みについては全国の中でも先駆的な取り組みをされており、その内容について学ぶため。
- [2] 人口減少は我が町においても課題となっている。人口減少を食い止め、移住・定住化を促進するため取り組み内容について学ぶ。
- [3] 我が町にもシティプロモーション係ができ、町の魅力を内外へ発信することに取り組んでいる。その取り組みを更に発展させる取り組みについて学ぶため。

(2) 視察内容

- [1] 都城市のデジタル化の取り組みは、これまで、日本 DX 大賞優秀賞受賞や日経自治体 DX アワード 2 部門受賞はじめ、数々の輝かしい賞を受賞している。市長自らが、デジタル化を発信し続ける！意識してチャレンジする！スピード感を重視する！ことを意識し取り組んでいた。都城市では、地域の経営資源 (人、モノ、金) を最大限に活用し、利益の最大化 (市民の幸福と市の発展) を図ることを目指し、民間の力も導入しながら「都城フィロソフィ＝市民の幸福と市の発展」を実現する方法として行政のデジタル化を進めていた。進めるにあたり、デジタル化はあくまでも手段であり、無駄なデジタル化はせず、業務改革とセットで考える。課題解決のためにはこれまでのルールに対しては変更を前提に、現状より良くな

ればOKとの視点で、完璧は求めず少しずつ堅実な前進を目指していた。マイナンバーカード保有率89%(R6年度現在日本一!)。カードの活用で検診や予防接種、母子支援などと連携しサービス向上につなげる。原則、全手続きのオンライン化を進め、全国初のキャッシュレス対応も実現した。その他、デジタル面接や、高齢者のデジタル技術の相談会などデジタル活用支援推進事業にも取り組んでいた。市の事業では、デジタル化が効果を発揮するものと人的支援が効果を発揮するものを見極め、全ては市民に役に立ち、利便性向上・満足度向上につながる手法を推進するため、官民共創で新しい価値創造を目指していた。

[2] 曾於市では、新生児の人数減、高齢化の上昇を鑑み、移住・定住を進めるため、定住化事業を開始した。主な取り組みは、住宅取得祝金制度の導入、食の支援事業、結婚新生活支援補助金制度、ベッドタウンとしての立地を生かした宅地分譲事業を行っており、そのためのオーダーメイド型移住体験ツアーも実施していた。他自治体との差別化など、工夫しながら取り組んでいた。安心して生活・子育てができる環境づくりが大切と考え、課題を分析・克服し、人口増に向けた事業の推進に取り組んでいた。

[3] 小林市は市の食(宮崎牛、果物)、自然(景観、水)、方言を誇りに思い、内外にこの魅力を発信していきたいと考え、シティプロモーションの取り組みを行っていた。コンセプトは、発信(みんなでハッシン)・発信(新たな形で情報をハッシン)・発振(ハッシンの波を起こす)。“ハッシン”をキーワードに多様な人と一緒になって小林市の魅力を広める「ハッシンコバヤシ!!プロジェクト」を推進していた。初めての動画の配信では、市内に住むフランス人が小林市の方言で話す言葉がフランス語に聞こえることで話題となり、公開後2カ月で再生回数160万回を超え、マスコミでもたびたび取り上げられた。その後、市内出身の有名人の人脈を生かした市の魅力の発信(PR動画、印刷物)や地域の方々と一緒にCMづくり、行動喚起を連鎖させるプロモーションの挑戦(イベントの実施、SNSの活用、ロケ地巡りなど)、CMに合わせた地域資源(宮崎牛、フルーツ、キャビア、水など)のキャンペーンなどメディアを使った発信を展開し、市の魅力発信に努めていた。

(3) 町にどのような提言ができるか

[1] 町民の幸せ、サービス向上、職員の仕事の効率化を視点に、先駆的取組を研究して、全ての事業に対してデジタル化の導入の可否を検討し、DXに取り組むべき。

[2] 移住・定住施策については、町の利便性、自然の豊かさや人とのつながり、子育て環境など、良いところを強調し住みよい町をPRすると共に、曾於市を参考に具体的施策にも着手すべきでは。

[3] 町の持つ資源(自然豊かで人が温かい町、製造業の盛んな町など)を基本に、モノレール延伸によりさらに利便性が向上し活性化する新しいまちづくりをアピールするなど、町の魅力を積極的にPRを進めるべき。

5 旅 費 :

月日	鉄道名(乗車経路)・ 宿泊場所	円 鉄 路	円 特 急	円 飛 行 機	円 車 両 (バス等)	円 レンタカー (借上料)	円 そ の 他	円 宿 泊 料
11/26	航空費・宿泊代・レンタカー代						56,600	
小 計							56,600	
		合 計 56,600 円						

6 交通費 : ガソリン代 723 円

有料道路通行料 832 円

駐車場代 0 円

計 1,555 円

7 手数料 : 円

8 保険料 : 円

9 資料代 : 円

10 その他 () : 円

総 合 計 58,155 円